
【うらしま太郎 2】

とよー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【つらしま太郎2】

【Nコード】

N2156W

【作者名】

とーよー

【あらすじ】

とーよーの童話シリーズ

玉手箱を空け一瞬にして年齢を重ねてしまった事により、うらしま太郎は今まで自分自信がやって来た事を後悔し、嘆いていた。

ただ1人時代に取り残された男は、一心不乱に夜の町へと繰り出しでは、大量の酒を浴び、自分自身を忘れるかの如く、店から店へと歩き渡り、更に大量の酒を浴び続けていったのだった。

そして、この時代、激しいバブルの低迷によって、時代に対応出来ない者達は職種困難というあざとい仕打ちを受け、この日も、うらしま太郎は、とあるIT企業への面接へと足を運んで行った…。

「えー。うらしまさんねー。学歴は無し。経歴も特にコレといって目立ったものは無く、いじめられていたカメを助けたくらいじゃ話になりませんよねー、実際…。趣味、特技に関しては、釣り…ですか？まあ、その様な事が書かれてはありますが、まあまあまあ、うちではどう活かす事も出来ない様なものなのでねー、今回はごめんなさい」

自宅のアパートに帰り付くなり、うらしまは泣いた。

自分がカメを助けたという事への後悔。そして、絶対に関けるなど呼び掛けをされていたにも関わらず、その玉手箱に手を掛けてしまった事に対する自分自身の軽率な行動…。

その全てにうらしまは涙を流していた。

そして、頭に思い浮かぶのはいつも、タイやヒラメの枚躍りや、乙姫様の笑顔であり、ただ、ただ、それを思い出しては涙を流す事しか出来ず、例え時代が進んでしまえど、年齢さえ若いままの、玉手箱に触れる以前の、あの日の若い姿であれば、その若さを利用し、肉体労働をしながら日銭を稼ぐという道だっただけであつたという事や、次から次へと自分自身の頭を過る沢山の後悔に、更に涙は出続けていった。

めでたし。めでたし。

(はい！おしまい)

いえい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2156w/>

【うらしま太郎2】

2011年10月9日14時42分発行